



JFE

JFEグループ インベスターズ・ミーティング

2014年10月28日

JFEホールディングス

目 次

■ JFEグループ2014年度上期決算 及び 2014年度業績見通し

- ・JFEスチール
- ・JFEエンジニアリング
- ・JFE商事
- ・JFEホールディングス

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。



JFEホールディングス

JFEグループ

2014年度 上期決算

2014年度上期決算

(単位: 億円)

	2013年度 上期実績	2014年度 上期実績	増減
売上高	17,283	18,480	1,197
営業利益	590	821	231
営業外損益	153	98	▲ 55
経常利益	743	919	176
特別損益	▲ 36	▲ 71	▲ 35
税前利益	706	848	142
税・少持	▲ 229	▲ 325	▲ 96
当期利益	477	523	46

(単位: 億円)

		2013年度 上期実績	2014年度 上期実績	増減
	鉄鋼事業	12,949	14,241	1,292
	エンジニアリング事業	1,072	1,446	374
	商社事業	8,558	9,462	904
	調整額	▲ 5,297	▲ 6,670	▲ 1,373
売上高		17,283	18,480	1,197
	鉄鋼事業	559	776	217
	エンジニアリング事業	21	6	▲ 15
	商社事業	104	114	10
	調整額	59	22	▲ 37
経常利益		743	919	176

対 前 回

(億円)

	2014年度上期		増減
	前回見通し	今回実績	
鉄鋼事業	14,400	14,241	▲ 159
エンジニアリング事業	1,400	1,446	46
商社事業	9,600	9,462	▲ 138
調整額	▲ 6,400	▲ 6,670	▲ 270
売上高計	19,000	18,480	▲ 520
鉄鋼事業	600	776	176
エンジニアリング事業	0	6	6
商社事業	105	114	9
調整額	▲ 5	22	27
経常利益計	700	919	219



JFEグループ

2014年度 連結業績見通し

2014年度業績見通し

対前回

(単位: 億円)

	2014年度見通し(前回)		2014年度見通し(今回)		増減
	上期	年間	上期	年間	上期
売上高	19,000		18,480	39,000	▲ 520
営業利益	700		821	2,000	121
営業外損益	0		98	0	98
経常利益	700	1,800	919	2,000	219
特別損益	▲ 70		▲ 71	▲ 100	▲ 1
税前利益	630		848	1,900	218
税・少持	▲ 230		▲ 325	▲ 700	▲ 95
当期利益	400		523	1,200	123
ROS	3.7%		5.0%	5.1%	1.3%

対前年度

(単位:億円)

	2013年度実績		2014年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上高	17,283	36,668	18,480	39,000	1,197	2,332
営業利益	590	1,533	821	2,000	231	467
営業外損益	153	203	98	0	▲ 55	▲ 203
経常利益	743	1,736	919	2,000	176	264
特別損益	▲ 36	▲ 131	▲ 71	▲ 100	▲ 35	31
税前利益	706	1,605	848	1,900	142	295
税・少持	▲ 229	▲ 581	▲ 325	▲ 700	▲ 96	▲ 119
当期利益	477	1,023	523	1,200	46	177
ROS	4.3%	4.7%	5.0%	5.1%	0.7%	0.4%



2014年度業績見通し

JFEホールディングス

セグメント別売上高/経常利益

対前年度

(単位:億円)

	2013年度実績		2014年度見通し		増減 上期	増減 年間
	上期	年間	上期	年間		
鉄鋼事業	12,949	26,916	14,241	29,100	1,292	2,184
エンジニアリング事業	1,072	2,841	1,446	3,600	374	759
商社事業	8,558	17,813	9,462	20,100	904	2,287
調整額	▲ 5,297	▲ 10,902	▲ 6,670	▲ 13,800	▲ 1,373	▲ 2,898
売上高	17,283	36,668	18,480	39,000	1,197	2,332
鉄鋼事業	559	1,262	776	1,600	217	338
エンジニアリング事業	21	184	6	160	▲ 15	▲ 24
商社事業	104	215	114	240	10	25
調整額	59	73	22	0	▲ 37	▲ 73
経常利益	743	1,736	919	2,000	176	264



JFEスチール

JFEスチール
2014年度 上期決算

■ 単体粗鋼/出荷(万t)

	13年度実績			14年度 上期 B	13上 →14上 B-A	前回(7/30) 14上
	上期 A	下期	計			
粗鋼生産	1,429	1,438	2,867	1,450	21	1,460 程度
鋼材出荷	1,257	1,295	2,552	1,304	47	1,330 程度
平均単価(千円/t)	74.6	76.8	75.7	76.7	2.1	76程度
為替 (円/\$)	98.0	101.5	99.8	102.5	4.5	102程度

■ 連結粗鋼(万t)

粗鋼生産	1,579	1,580	3,158	1,588	9	1,610 程度
------	-------	-------	-------	-------	---	-------------

単位: 億円

JFEスチール	2013年度実績			14年度	13上	前回(7/30)	前回
	上期 A	下期	計	上期 B	→14上 B-A		
売上高	12,949	13,967	26,916	14,241	1,292	14,400	▲159
経常利益	559	703	1,262	776	217	600	176
ROS	4.3%	5.0%	4.7%	5.4%	1.1%	4.2%	1.3%



2014年4-6月⇒7-9月

JFEスチール

連結経常利益 +162億円内訳

単位:億円

JFEスチール			14年度 上期 実績	差異 4-6月→ 7-9月
	4-6月	7-9月		
経常利益	307	469	776	+ 162

- コスト削減 + 20
- 数量・販価・原料 + 150
- 為替影響 + 100
- その他 ▲ 108

⇒ 主原料価格ダウン、数量増等

合計 + 162



2014年度上期 前回⇒今回 連結経常利益+176億円内訳

JFEスチール

単位:億円

JFEスチール	14年度上期 前回(7/30)	14年度上期 実績	年度差異 前回→今回
経常利益	600	776	+ 176

- 数量・販価・原料 + 60
- 為替影響 + 100
- その他 + 16

合計 + 176

2013年度下期⇒2014年度上期 連結経常利益 +73億円内訳

単位:億円

JFEスチール	2013年度下期 実績	2014年度上期 実績	差異 2013下→2014上
経常利益	703	776	+ 73

- コスト削減 + 100
- 数量・販価・原料 + 250
- 棚卸資産評価差等 ▲ 200
- その他物価up等 ▲ 77



主原料価格ダウン等

合計 + 73



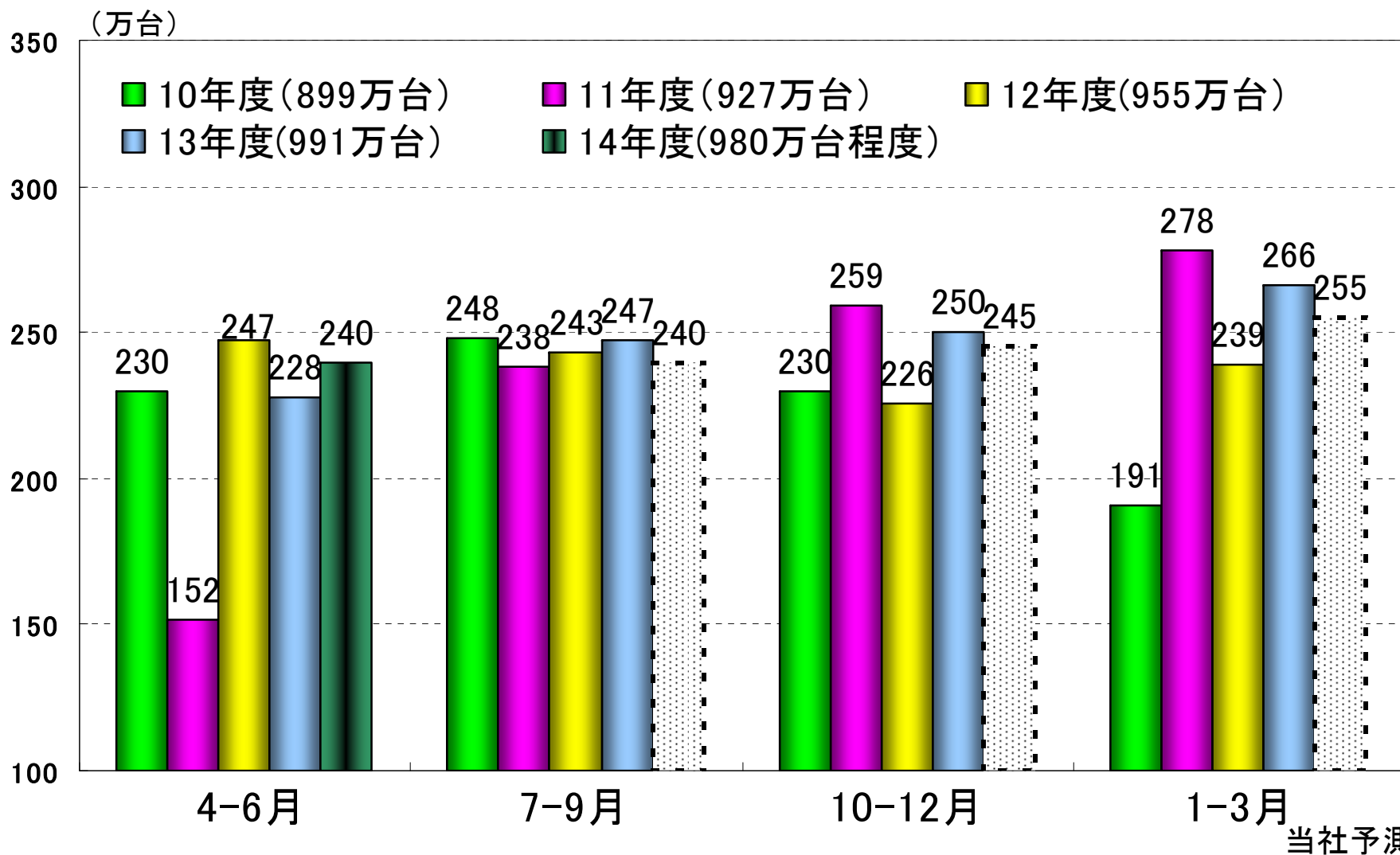
JFEスチール

JFEスチール

2014年度 業績見通し

国内販売環境

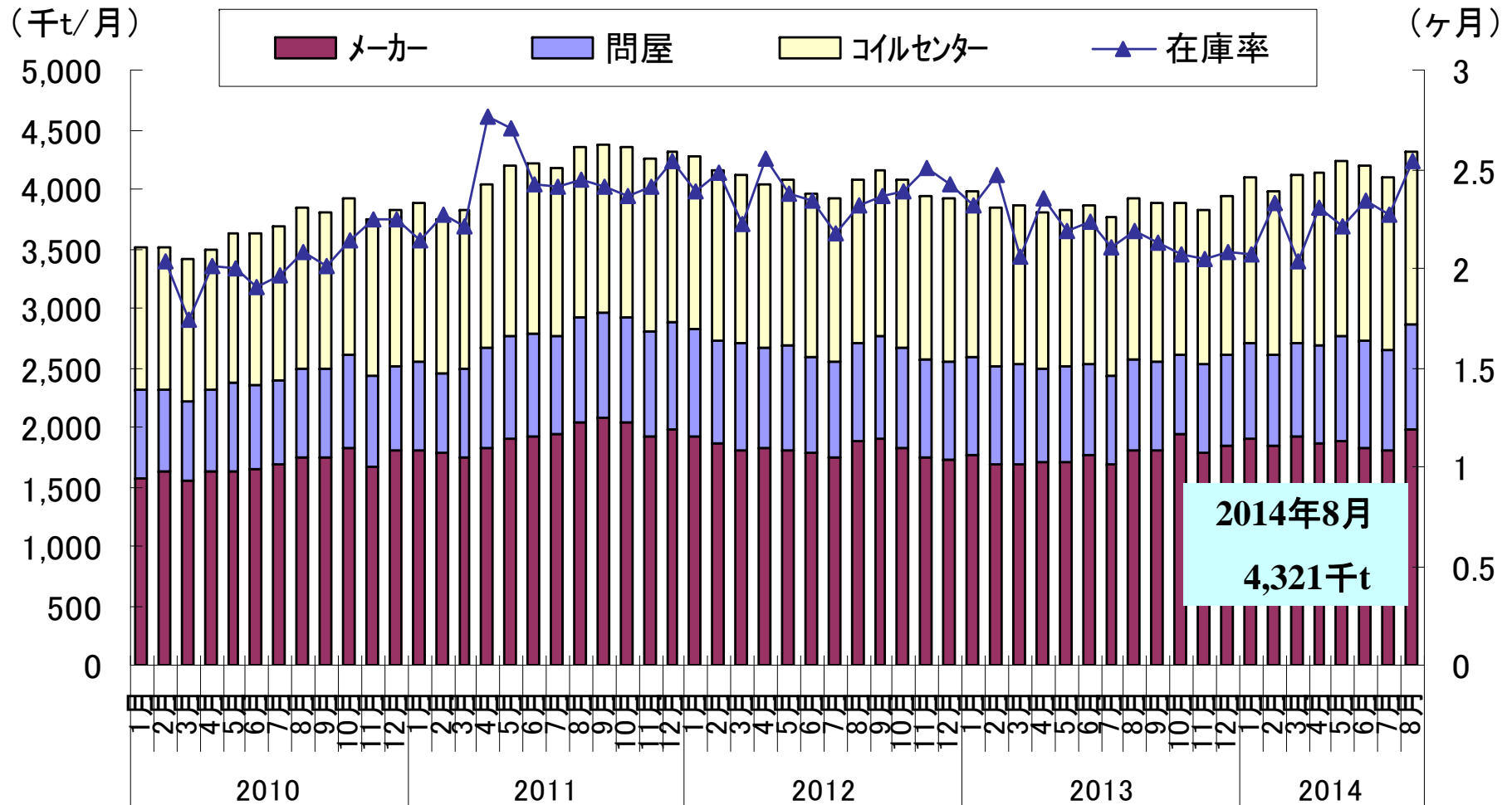
自動車生産台数



国内販売環境

薄板 3 品在庫

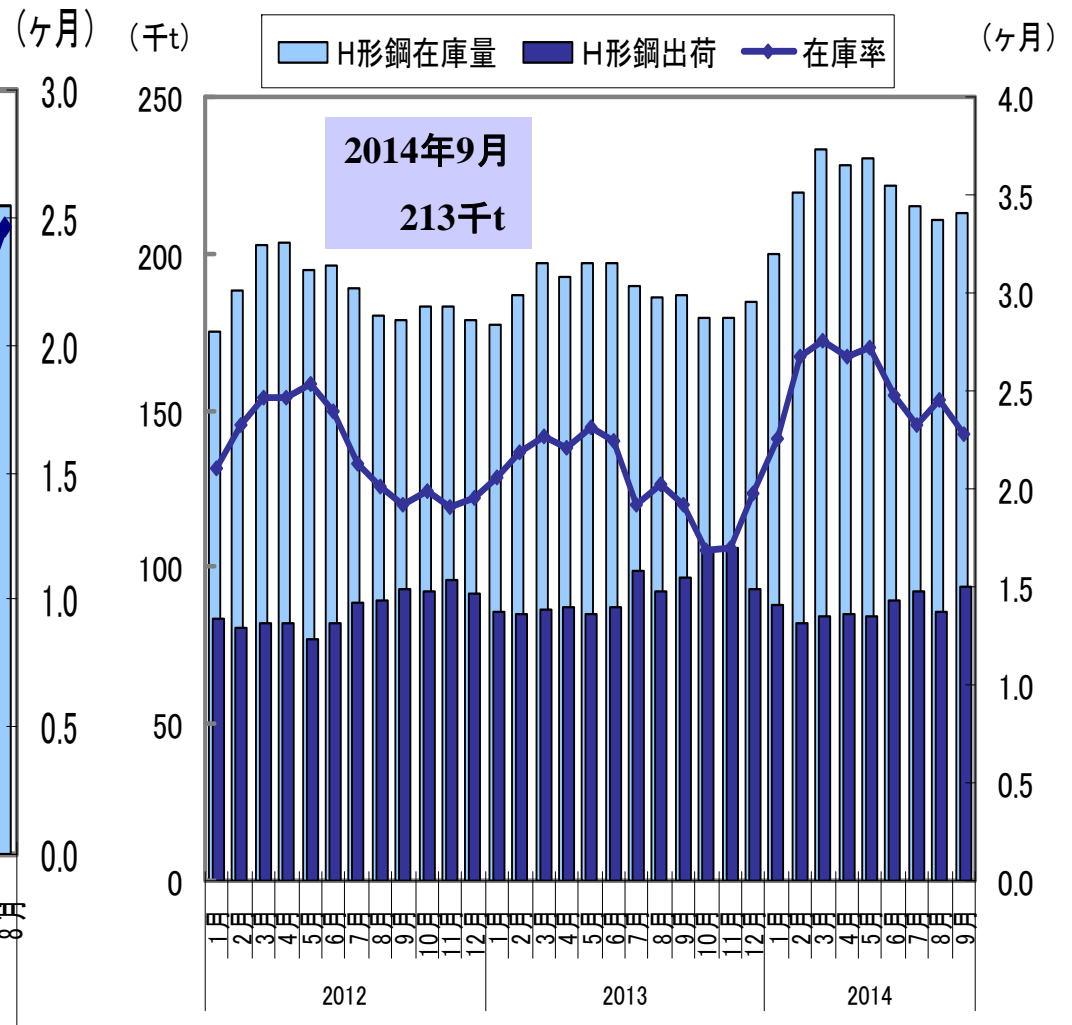
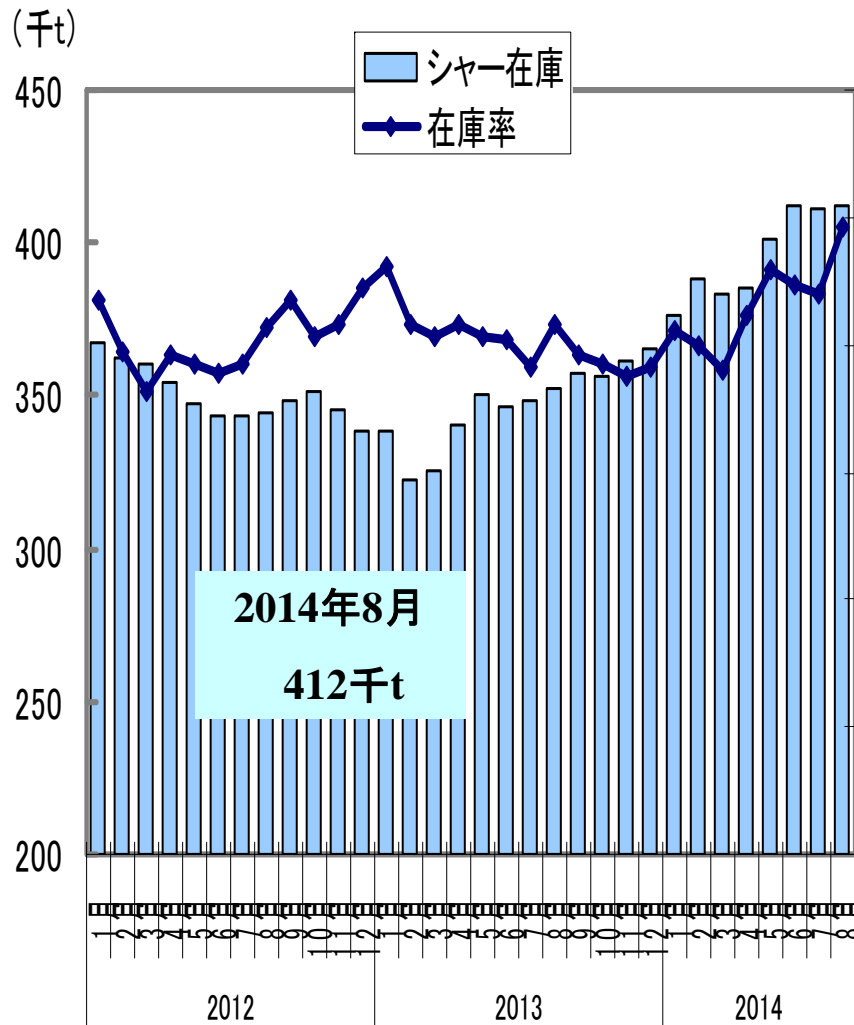
8月は盆休・台風影響でメーカー在庫が大きく積み上がった(+166千t)。9月は天候の回復、期末月の傾向から出荷遅れが解消され在庫調整が進展すると想定。



国内販売環境

厚板シャ-・H形鋼在庫

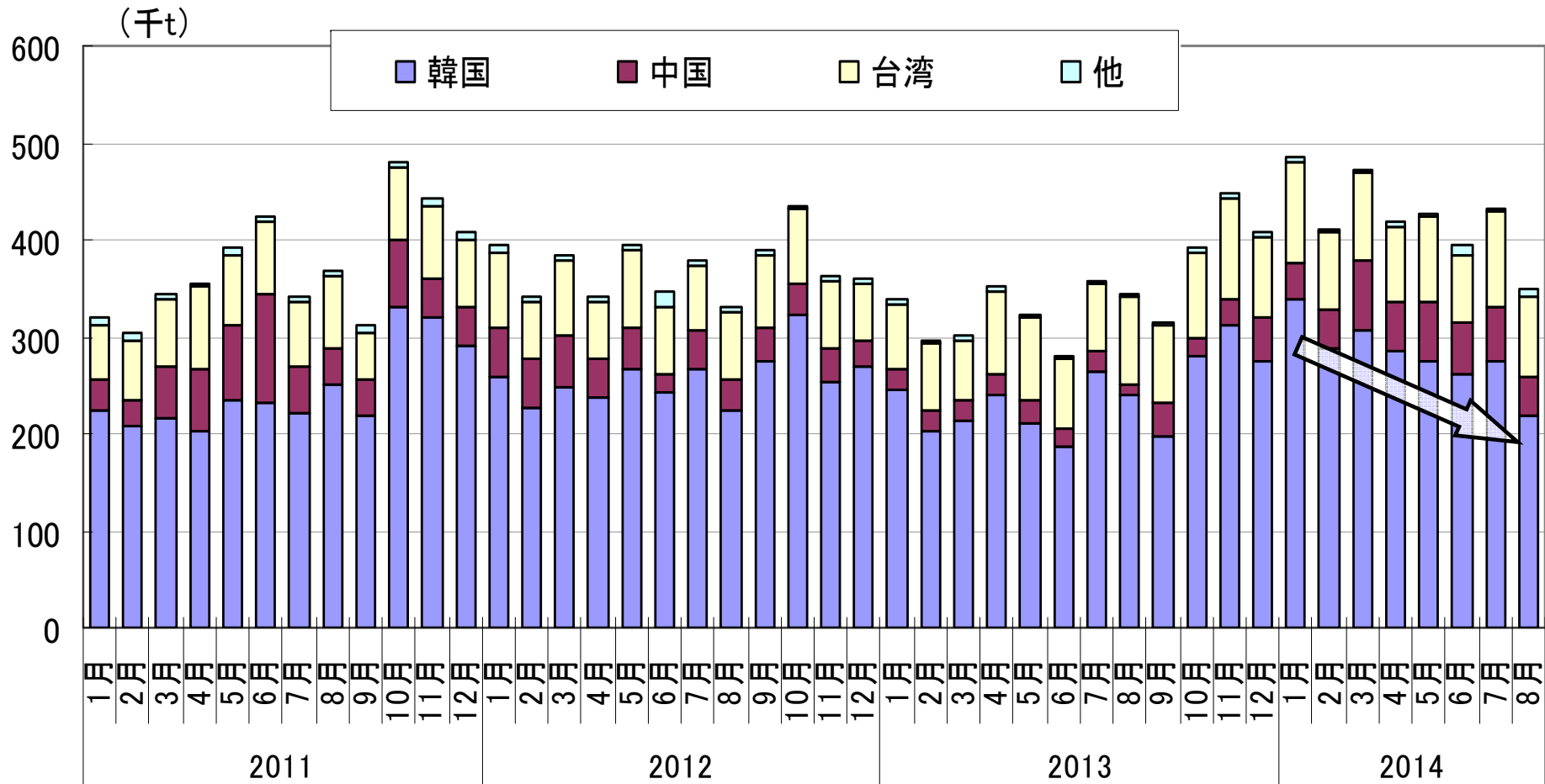
厚板シャ-在庫: 物件ズレ等の影響もありシャ-在庫は高位で推移。
H形鋼在庫: 出庫増により9月末在庫率は改善。



国内販売環境

輸入鋼材(普通鋼/国別)

韓国材: 14年1月をピークに漸減傾向、前年同月比も減。
 中国材: 13年末より増加基調。



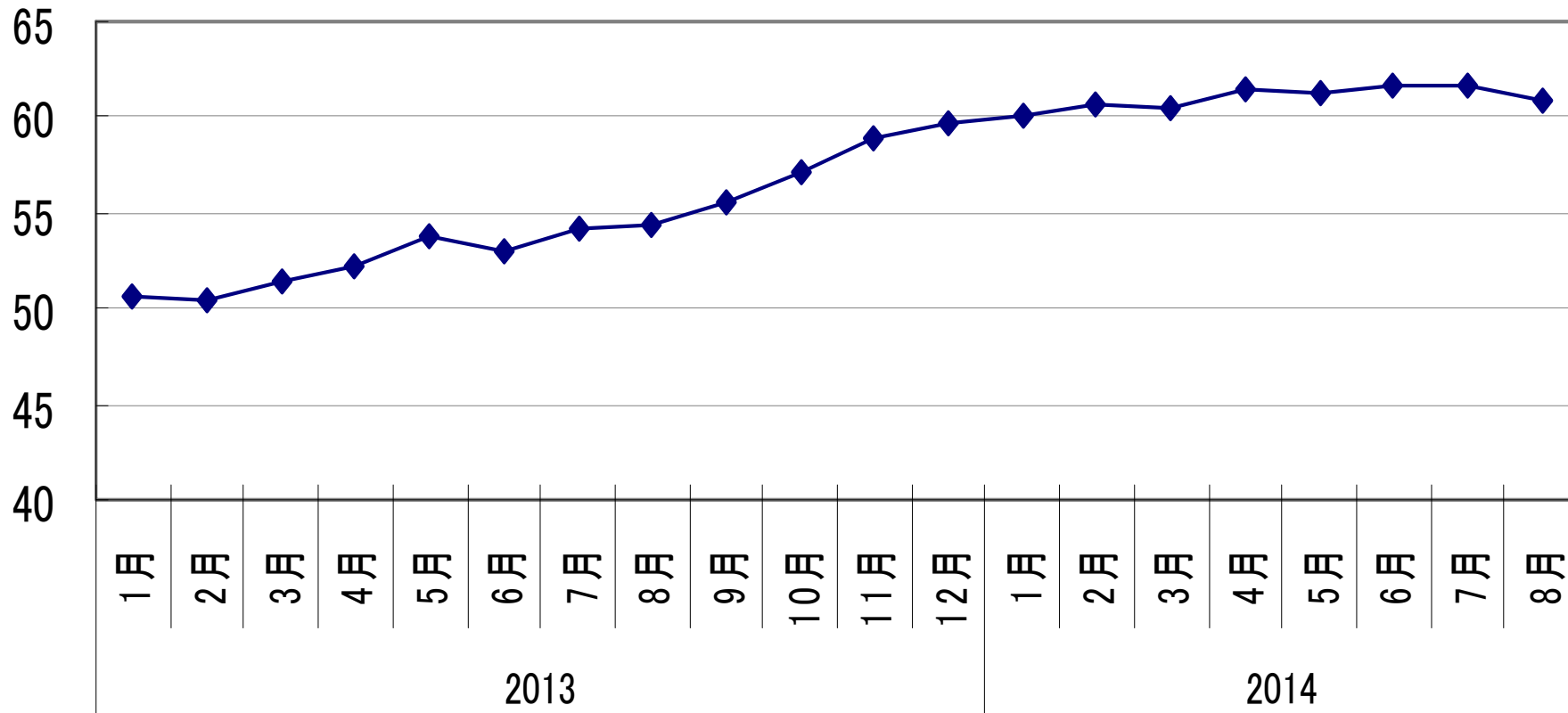
国内販売環境

輸入鋼材(価格)

昨年年初以来約1万円/t上昇。

(千円/t)

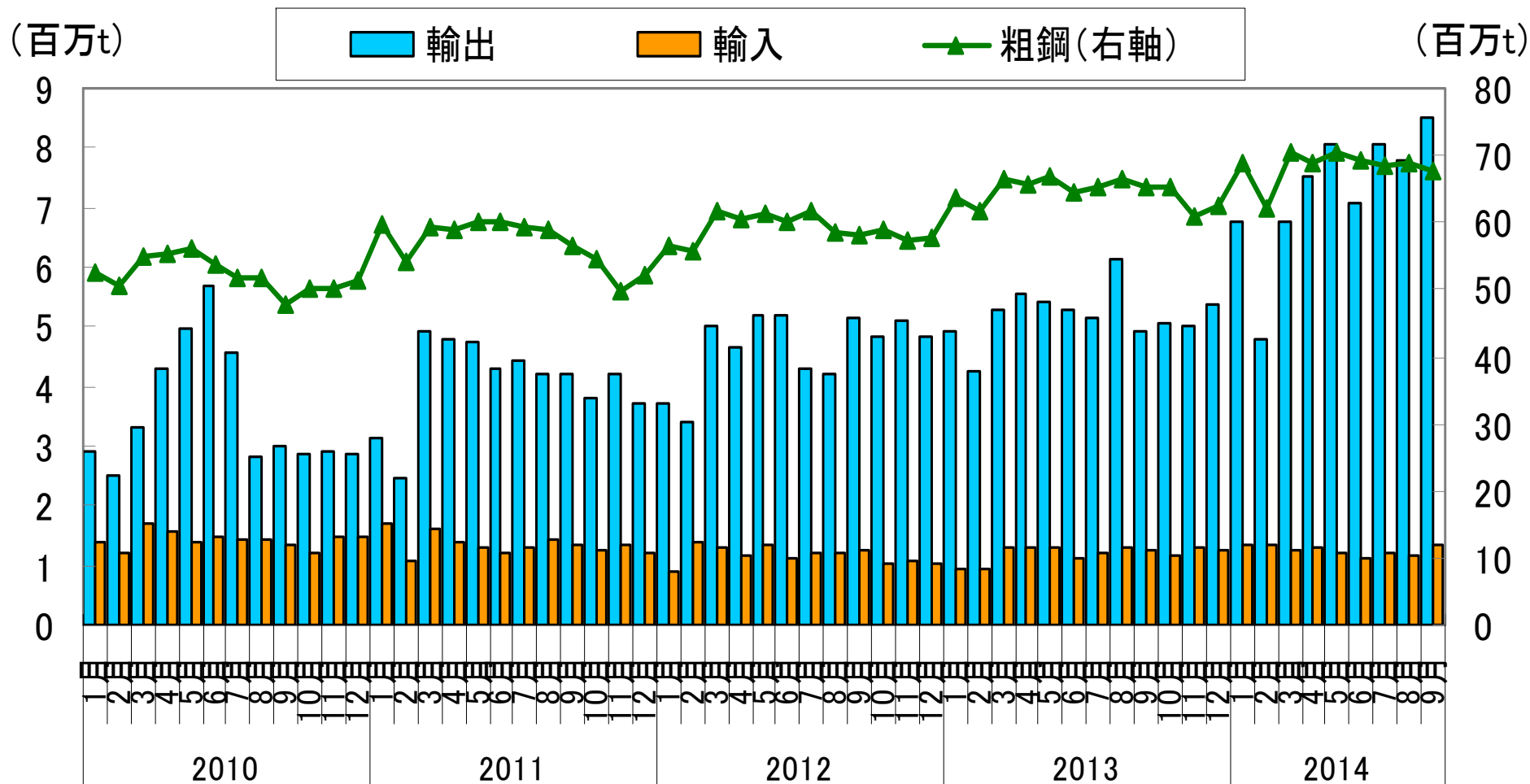
韓国からのHRC輸入価格



輸出販売環境

中国粗鋼・輸出入

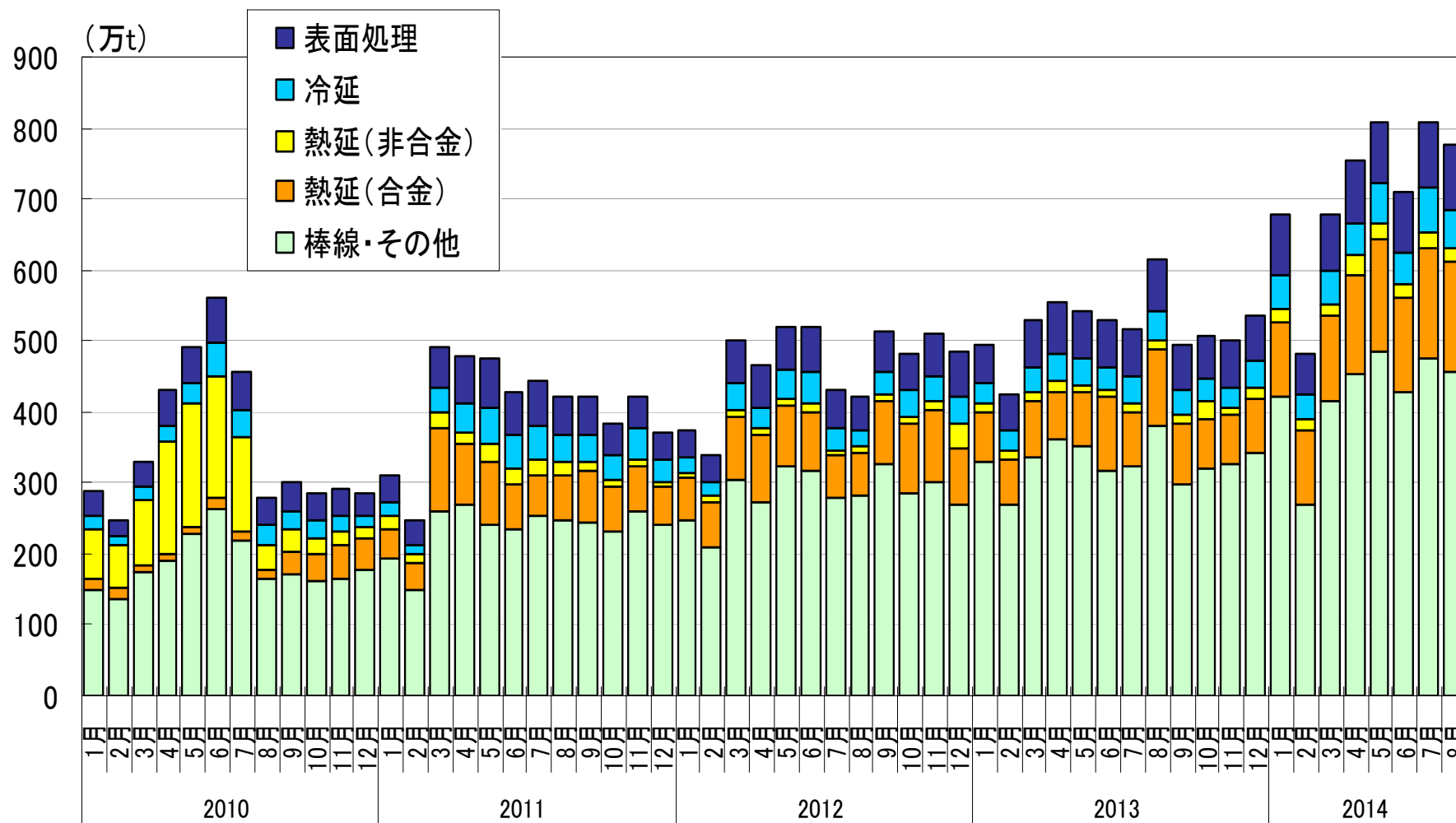
9月粗鋼生産量は6,754万tと前月比微減。日当たり粗鋼生産量は225万tと6月のピーク(231万t)以降落ち着きをみせている。9月の輸出は過去最高を記録。



輸出販売環境

中国輸出（品種別）

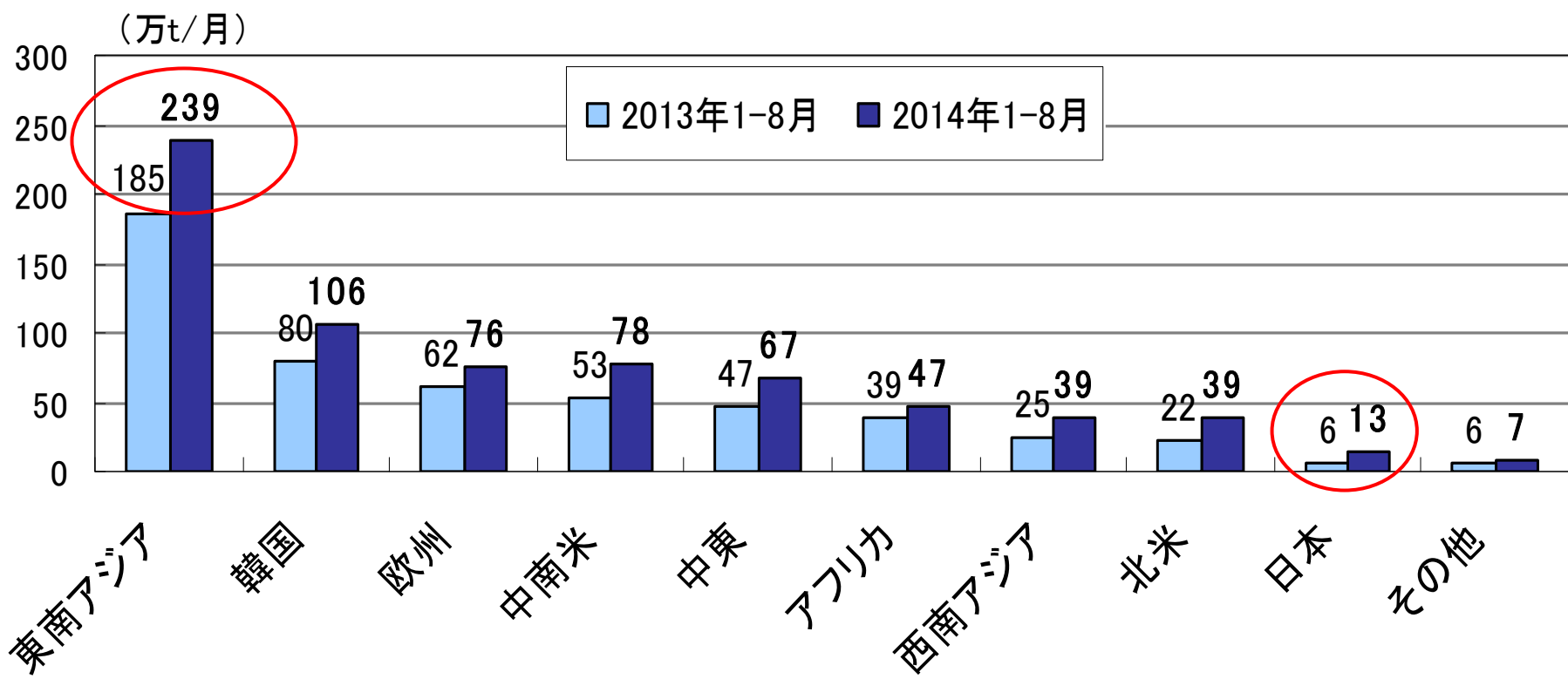
増加基調だが、その大部分は棒線と熱延。



輸出販売環境

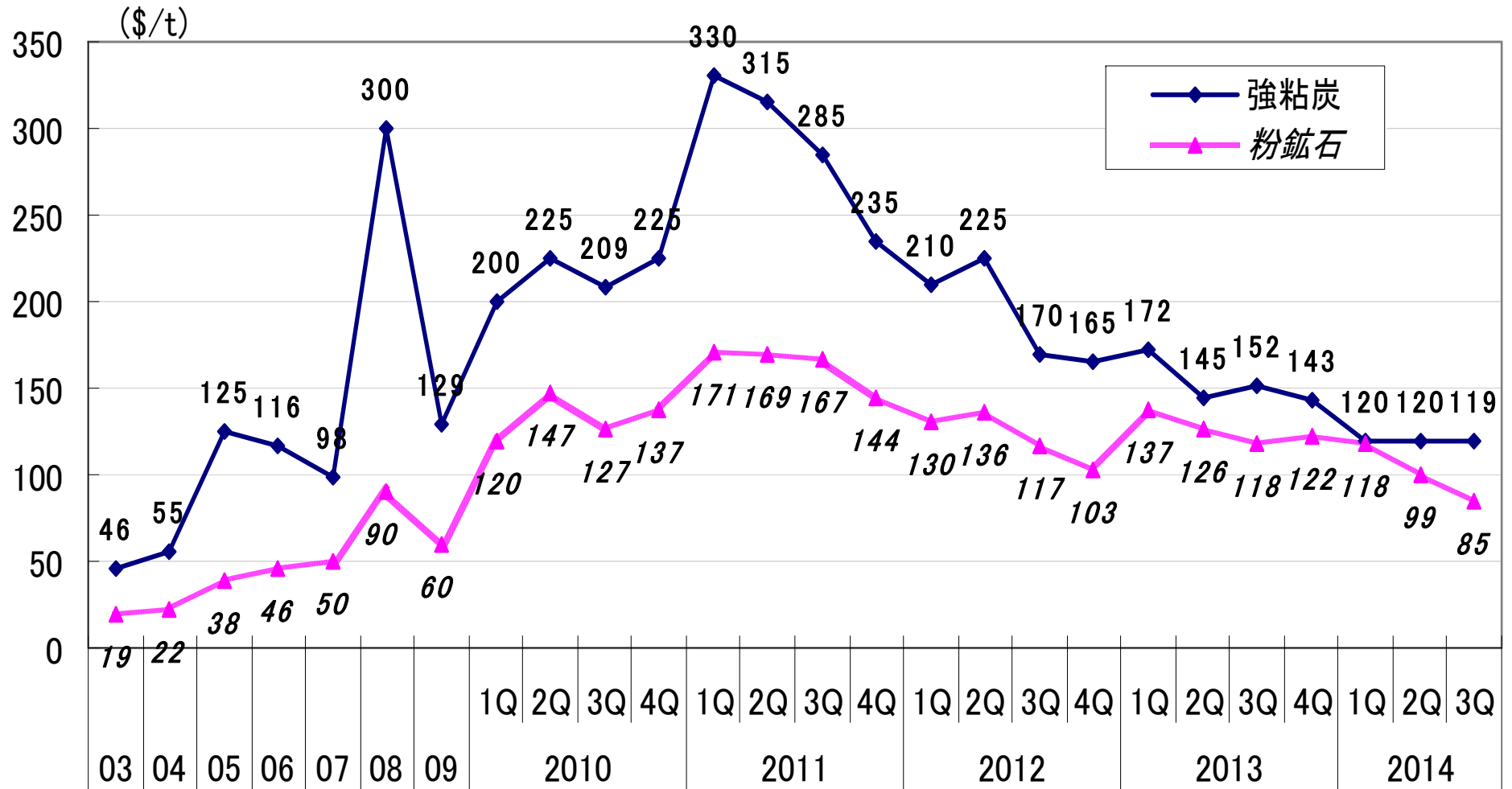
中国からの輸出

前年と比べ各地域で増加しているが、その大半は東南アジア向け。対日輸出は増加傾向にあるが数量は月当たり13万トン程度と全体の約2%。



原料

主原料価格推移



単体数量前提(万t)

	2013年度	2014年度上期		2014年度 下期 (見通し)	
		4-6月	7-9月		
	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
粗鋼生産	2,867	714	735	1,450	1,470程度
鋼材出荷	2,552	641	662	1,304	
平均単価(千円/t)	75.7	77.9	75.6	76.7	
為替 (円/\$)	99.8	102.4	102.7	102.5	105
				109.5	105
連結粗鋼生産	3,158	787	801	1,588	



2014年度業績見通し

単位：億円

JFEスチール (連結)	2013年度実績			2014年度見通し			年度差異 2013 → 2014
	上期	下期		上期	下期		
売上高	12,949	13,967	26,916	14,241	14,859	29,100	+ 2,184
経常利益	559	703	1,262	776	824	1,600	+ 338
ROS	4.3%	5.0%	4.7%	5.4%	5.5%	5.5%	0.8%

連結経常利益 +48億円内訳

単位：億円

JFEスチール			14年度 見通し	上下差異 14上→14下
	上期	下期		
経常利益	776	824	1,600	+ 48

■ コスト削減 + 100

■ 数量・販価・原料 + 150 ⇒

主原料価格ダウン等

■ 棚卸資産評価差等 ▲ 50

■ 為替影響 ▲ 100

■ その他 ▲ 52 ⇒

廃却等

合計 + 48

2014年度 連結経常利益 +338億円内訳

単位：億円

JFEスチール	13年度 実績	14年度 見通し	年度差異 13→14
経常利益	1,262	1,600	+ 338

■ コスト削減	+ 400	⇒	基盤整備含む
■ 数量・販価・原料	+ 1,100	⇒	主原料価格ダウン等
■ 棚卸資産評価差等	▲ 700		
■ 為替影響	▲ 100		
■ その他物価up等	▲ 300	⇒	エネルギー価格、販直・外注 等
■ 廃却他	▲ 62		
合計	+ 338		



(参考) 2013年度上期⇒2014年度上期
 連結経常利益 +217億円内訳

JFEスチール

単位: 億円

JFEスチール	13年度			14年度上期 実績	年度差異 2013上→2014上
	上期	下期	計		
経常利益	559	703	1,262	776	+ 217

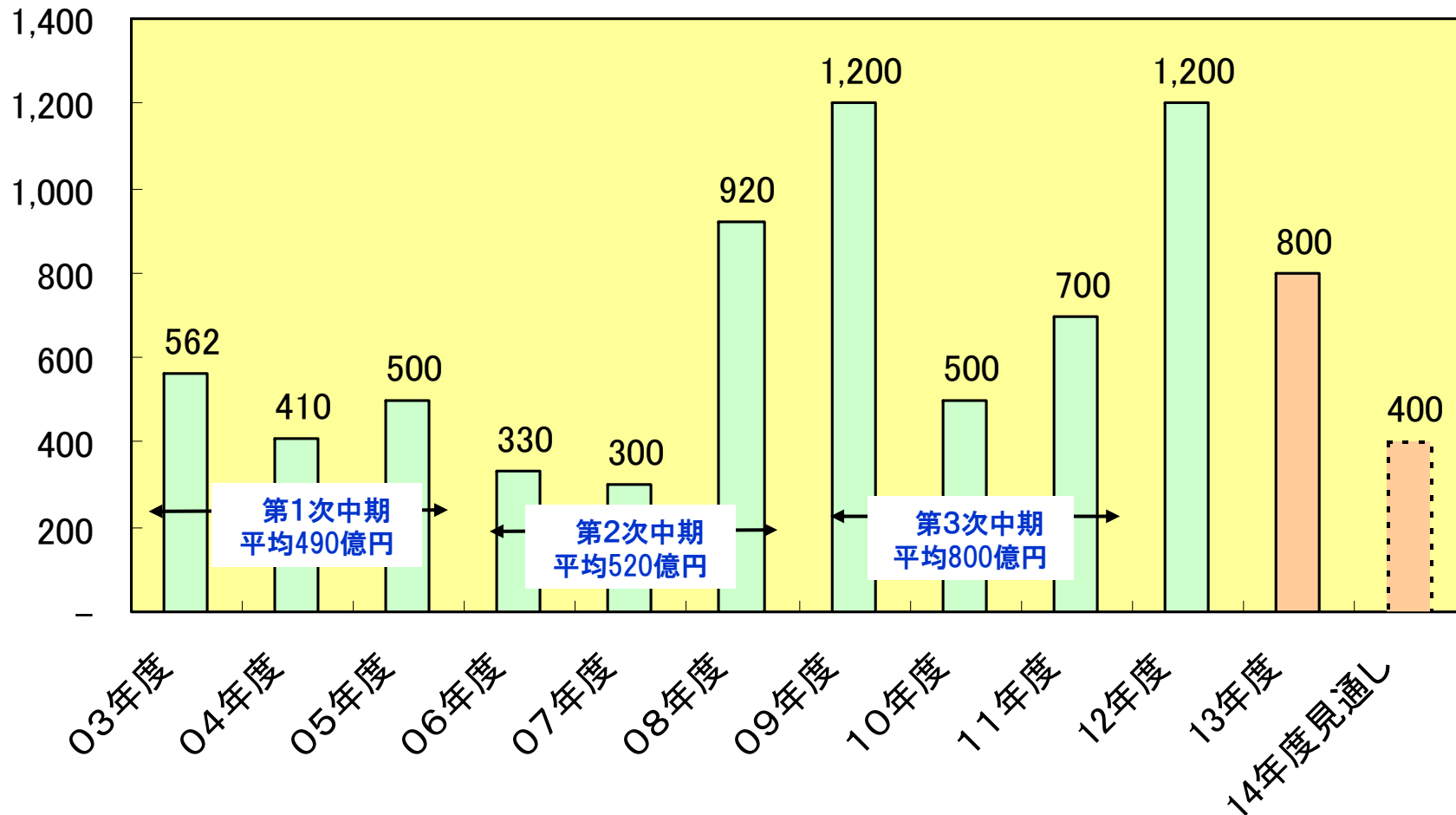
- コスト削減 + 200
- 数量・販価・原料 + 650
- 棚卸資産評価差等 ▲ 500
- その他物価up等 ▲ 133

⇒ 主原料価格ダウン等

合計 + 217

コスト削減推移(鉄鋼事業)

(億円) コスト削減額推移(JFEスチール発足以降)





JFEエンジニアリング
2014年度 業績見通し



JFEエンジニア 2013年度⇒2014年度

対前年度

(億円)

	2013年度実績		2014年度見通し		増減	増減
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	1,863	3,670	2,148	4,500	285	830
売上高	1,072	2,841	1,446	3,600	374	759
経常利益	21	184	6	160	▲ 15	▲ 24

【主な増減要因】

受注高 福島 災害廃棄物処理業務 3件受注 等

売上高 受注拡大に伴う増加
(受注高:2012年度 2,698 → 2013年度 3,670 → 2014年度 4,500)

経常利益 国内建設工事費の上昇 等

JFEエンジニアリング 受注内容

(億円)

分野	2013年度 実績	2014年度 見通し	増減	2014年度上期の主な受注案件
都市環境	1,146	3,400	760	福島 災害廃棄物等 焼却・減容化処理業務 ・伊達地方 仮設焼却炉整備・保管・運営事業 ・南相馬市対策地域内廃棄物処理業務 ・葛尾村対策地域内廃棄物処理業務 館林衛生施設組合 ごみ焼却施設 ごみ焼却施設基幹改良工事(一宮市 他2件) INPEX 南長岡ガス田 プラント増強工事 西部ガス 九州北部幹線パイプライン西側区間 インドネシア カリソゴ・ワル パイプライン
電力創生	719			
エネルギー	774			
鋼構造	587	1,100	70	仙台塩釜港 岸壁工事 ジャケット製作 橋梁(名取中央高架橋、新東名厚木高架橋 等) ミャンマー ミニゴン高架橋 船舶用バラスト水管理システム (83隻分、商品名:バラストエース)
その他	441			
合計	3,670	4,500	830	

電力創生分野

再生可能エネルギーによる発電事業

	施設建設		発電事業	
	件数等	出力	件数等	出力
バイオマス発電	4件受注 イーレックス(株)向け 2件 (株)エネ・ビジョン、 昭和シェル(株)向け 各1件	130MW	津製作所構内に木質バイオマス発電所を建設(2016年7月稼動予定)	20MW
太陽光発電	全国各地 74件受注	300MW	8箇所 10月に三保ソーラーパワー稼動(8箇所全件で稼動開始)	40MW
地熱発電	2件のバイナリー発電設備を建設中 (株)九電工(指宿)、つちゆ温泉エナジー(株)		岩手地熱(株)を設立し、 松尾八幡平地区で掘削調査中	

木質バイオマス発電



太陽光発電



↑ 雲出ソーラーパワー(三重県津市)

地熱発電





JFE商事
2014年度 業績見通し

JFE商事 2014年度業績見通し

対前年度

(億円)

	2013年度実績		2014年度見通し		増減 年間
	上期	年間	上期	年間	
売上高	8,558	17,813	9,462	20,100	2,287
経常利益	104	215	114	240	25

【主な増減要因】

- <国内> ・製造業向け数量増(造船向け等)
 ・グループ会社収益増(建材・鋼管販社等)
- <海外> ・輸出数量増(鋼板類・エネルギー鋼材等)
 ・海外現地法人(米国・タイ等)の収益増

JFE商事 セグメント別売上

単位：億円		2013年度実績		2014年度予想		増減	
国内		9,431		10,620		1,189	
海外	輸出	4,508	6,522	4,872	7,569	364	1,047
	海外事業	2,014		2,697		683	
その他(原材料・資機材・調整額他)		1,860		1,911		51	
合計		17,813		20,100		2,287	

【主な増減要因】

＜国内＞ ・各製造業向け数量増
 ・グループ会社(建材・鋼管ほか)で前期比15%超の増収見込み

＜海外＞ ・輸出： 輸出数量増
 ・海外事業： 米国J商グループは好調を維持、前期比で約20%の増収を見込む
 (* 米国J商グループ： 米国J商、VEST、JFE商事スチール メキシコ)

JFE商事の海外拠点の拡大について

1. JFE商事として世界18カ国に36カ所の拠点を保有
2. 2013年から2014年にかけて、新規に6ヶ所の拠点を開設



地域	新規開設拠点	目的
東南アジア	タイJ商ヤンゴン支店	ミャンマー市場の開拓
	タイJ商レムチャバン支店	タイにおける自動車鋼板需要の捕捉
トルコ	イスタンブール駐在員事務所	トルコ市場の商権獲得
中国	上海J商漳州支店	JFEスチールが技術協力する福建福欣特殊鋼の生産するステンレス製品の拡販
米州	米国J商メキシコシティ支店	メキシコにおける鉄鋼・原材料需要の捕捉
	ブラジルJ商リオデジャネイロ支店	リオデジャネイロ地域における鋼材・原材料需要の捕捉



JFEホールディングス

JFEホールディングス

2014年度 連結業績見通し

2014年度業績見通し

対 前 回

(単位: 億円)

	2014年度見通し(前回)		2014年度見通し(今回)		増減
	上期	年間	上期	年間	上期
売上高	19,000		18,480	39,000	▲ 520
営業利益	700		821	2,000	121
営業外損益	0		98	0	98
経常利益	700	1,800	919	2,000	219
特別損益	▲ 70		▲ 71	▲ 100	▲ 1
税前利益	630		848	1,900	218
税・少持	▲ 230		▲ 325	▲ 700	▲ 95
当期利益	400		523	1,200	123
ROS	3.7%		5.0%	5.1%	1.3%



中間配当について

中間配当の件

- 当期の中間配当につきましては、1株当たり20円を支払うことを取締役会にて決議いたしました。
- 期末の配当につきましては、今後、業績動向を見極めつつ検討することとしており、未定であります。



以下參考資料

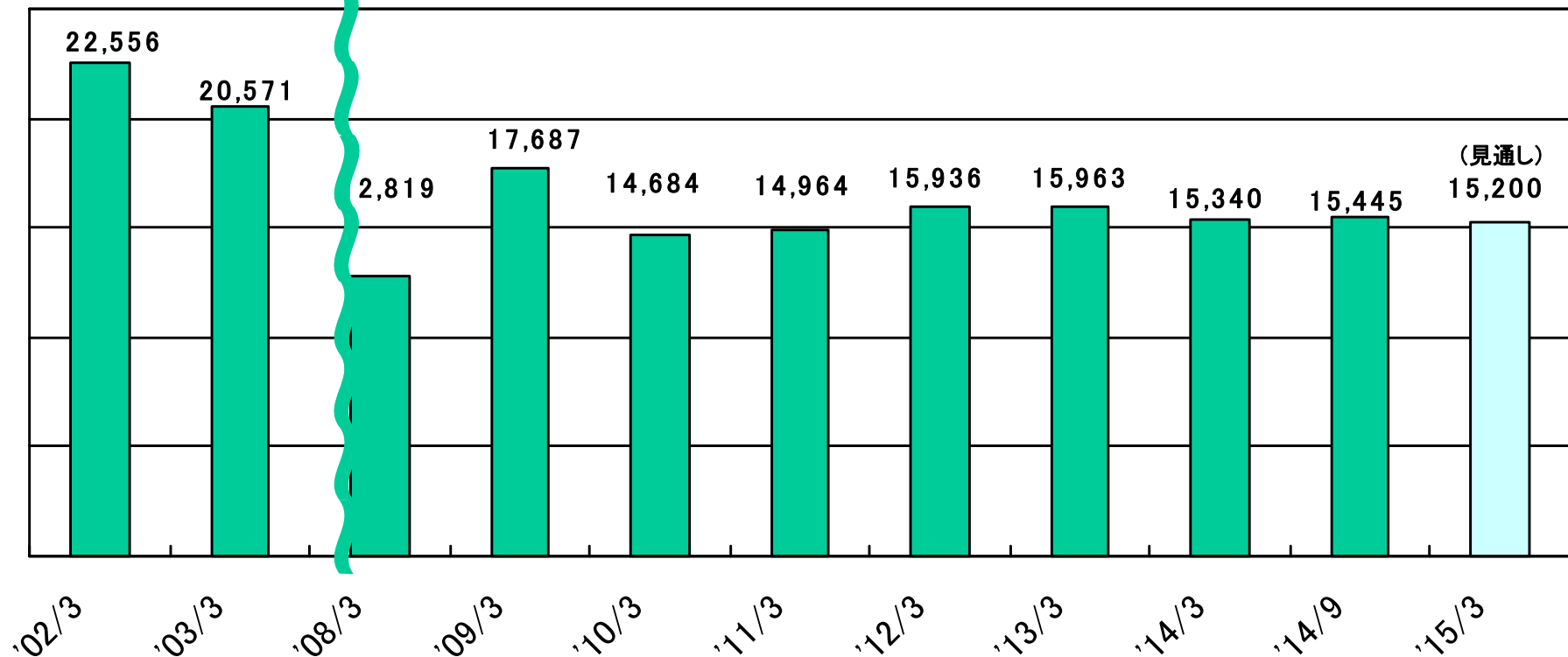


(参考) 2014年度キャッシュフロー

2014年度収支	(見通し)	(億円)
経常利益		2,000
減価償却		1,800
設備投資		-2,100
運転収支他		-1,560
C/Fによる借入増減		140

借入金残高

(単位: 億円)



(参考) 主な財務関連データ推移

(見通し)

	2003年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
【主要財務指標】									
経常利益 (億円)	2,183	5,029	4,005	692	1,658	529	522	1,736	2,000
ROS ※1	8.8%	14.2%	10.2%	2.4%	5.2%	1.7%	1.6%	4.7%	5.1%
ROE ※2	15.9%	17.5%	13.7%	3.3%	4.1%	-2.6%	2.7%	6.3%	6.8%
ROA ※3	6.5%	13.0%	10.0%	2.2%	4.6%	1.7%	1.6%	4.5%	5.0%
D/Eレシオ ※4	246.2%	61.4%	98.9%	75.5%	76.5%	83.5%	76.9%	67.9%	63.6%
【株式関連】									
当期純利益 (円/株)	185.8	450.6	355.6	86.4	110.7	-68.7	71.2	177.4	208.0
配当金 (円/株)	30	120	90	20	35	20	20	40	* 20

* 中間配当

※1 売上高経常利益率(ROS) = 経常利益/売上高 × 100

※2 自己資本利益率(ROE) = 当期純利益/期中平均自己資本 × 100

※3 総資産金利前経常利益率(ROA) = (経常利益 + 支払利息)/期中平均総資産 × 100

※4 D/Eレシオ = 借入金・社債残高/自己資本 × 100

但し、格付け評価上の資本性を併せ持つ負債(3,000億円)について、格付機関の評価により75%を資本に参入



主な海外事業投資の状況①

	会社名	所在国	出資比率	投資内容 (能力)	FY12	FY13	FY14
自動車	GJSS スチール	中国	50%	冷延(180万t/年) CAL(100万t/年) 第2CGL(40万t/年)	▲ 稼動 ⇒ 1期と合せCGL80万t体制化 ▲ 広州薄板(Bao子会社)に パートナー変更		
	JSGT スチール	タイ	100%	CGL(40万t/年)		▲ 稼動(タイ初の自動車用CGL)	
	JSGI スチール	インドネシア	100%	CGL(40万t/年)		▲ 投資決定 ⇒ 16年3月稼動予定 (インドネシア初の自動車用CGL)	
	JSW スチール	インド	15%	第2冷延(230万t/年) CAL(95万t/年×2) CGL(40万t/年)	冷延稼動 ▲ 第1CAL, CGL稼動 ▲		第2CAL稼動 ▲
	r. bourgeois JFE Shoji 商事	米国	50%	モーターコア製造			▲ 合併会社設立 ⇒ HEV・EV需要を補足
	TCR スチール	タイ	36%	冷延(100万t/年)		▲ 株式一部買戻し ⇒ コールメジャー化	
	JJP スチール (嘉興JFE精密鋼管)	中国	51%	自動車用鋼管 (約2千t/月)			▲ 会社設立 ⇒ 15年稼動予定



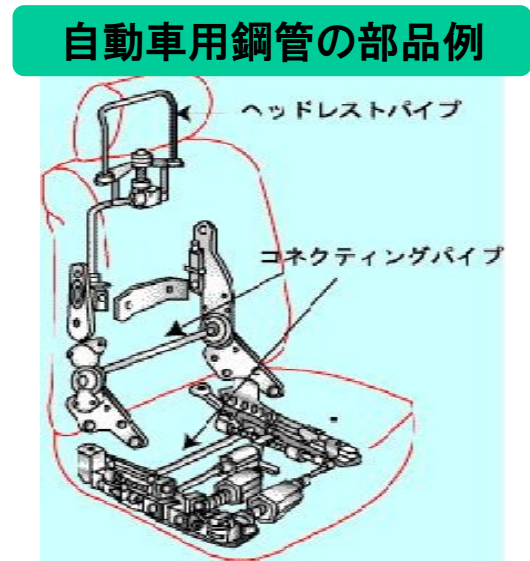
主な海外事業投資の状況②

	会社名	所在国	出資比率	投資内容	FY12	FY13	FY14
エネルギー	CSI <small>スチール</small>	米国	50%	第2電縫管ミル (36万t/年)			▲ 稼動
	Benoit <small>スチール</small>	米国	15%	油井管加工	▲ 買収完了	エネルギー関連需要の 拡大を補足	
容器	JFE金属容器 <small>JFEコンテナ</small>	中国	80%	ドラム缶製造工場 (420万缶/年)	▲ 江蘇工場稼動	▲ 浙江第2工場稼動	
コイルセンター	JSI <small>商事</small>	インド	100%	新設 (30千t/年)	▲ 稼動		
	JSHP <small>商事</small>	ベトナム	100%	新設 (48千t/年)			▲ 稼動
	JSSI <small>商事</small>	インドネシア	97%	第2工場 (61千t/年)			▲ 稼動
	SASC <small>商事</small>	タイ	70%	2期投資 (200千t/年)		▲ 稼動 ⇒ 自動車用広幅鋼板対応	

嘉興JFE精密鋼管(JJP)設立 (自動車用鋼管の製造・販売合弁会社)

出資比率: JFE スチール 36%、川崎鋼管(JFE スチール100%子会社) 15%
伊藤忠丸紅鉄鋼 30%(東京10%、香港20%)、萱華工業 19%

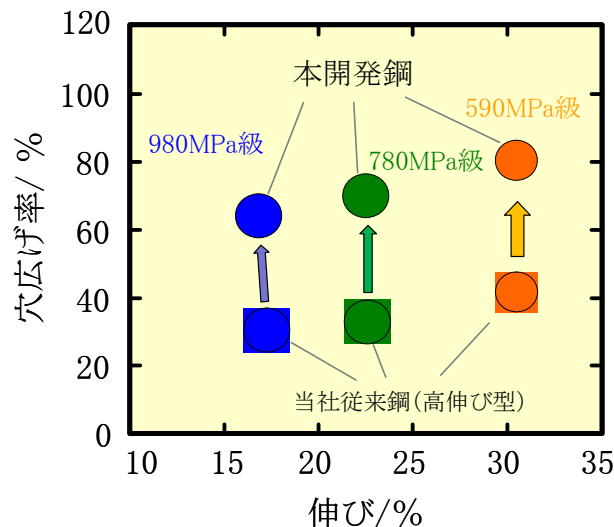
- ・ 自動車部品用を中心とした鋼管の製造および販売(約2千トン/月)
- ・ JFEグループにて51%出資(2014年7月設立)
- ・ 川崎鋼管が持つオンリー1技術(小径厚肉電縫管製造技術)を導入
- ・ 中国自動車生産台数は今後も堅調な伸びが期待
⇒増加が予想される自動車用鋼管需要を捕捉



(2014年10月27日公表)

- 自動車骨格部品用に、**伸び特性**に加えて**伸びフランジ成形性**にも優れた**590~980MPa級ハイテンGA鋼板**の開発。
- 当社従来鋼に比べて**約2倍の穴広げ率**を有する。
⇒ 形状自由度が広がり、深い絞り形状のピラーロアなどの車体骨格部品について、更に強度の高いハイテンGAの積極的適用が可能となり**軽量化(薄肉化)**に貢献。

【本開発鋼の穴広げ率】



【伸びフランジ不足による成形割れ事例(ピラーロア)】



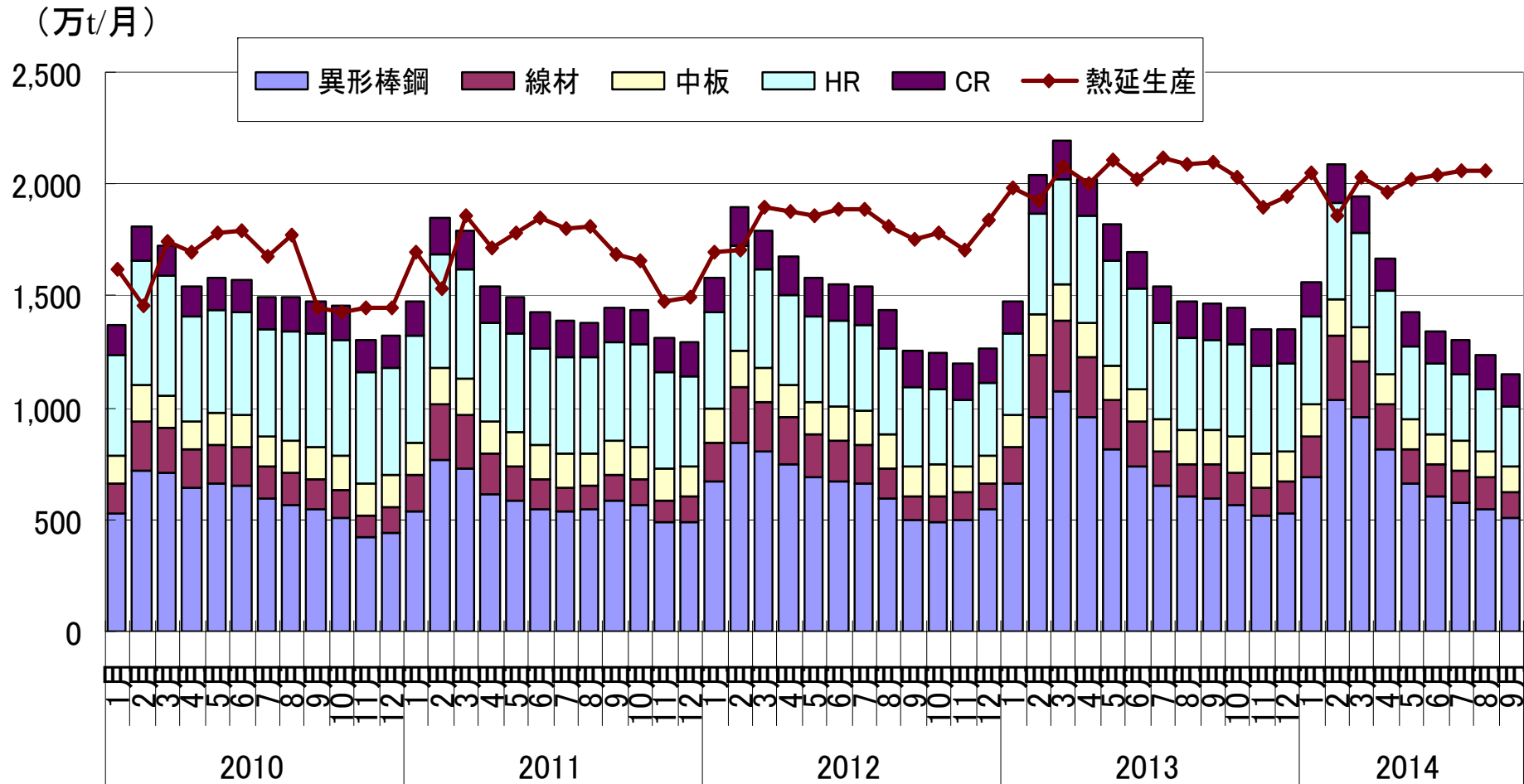
【センターピラーの説明図】



輸出販売環境

中国在庫

市中在庫は、金融引締めによる買控えの影響もあり減少傾向。ただし、中国ミルは依然として高いレベルの生産を続けており、在庫動向には今後も注意が必要。



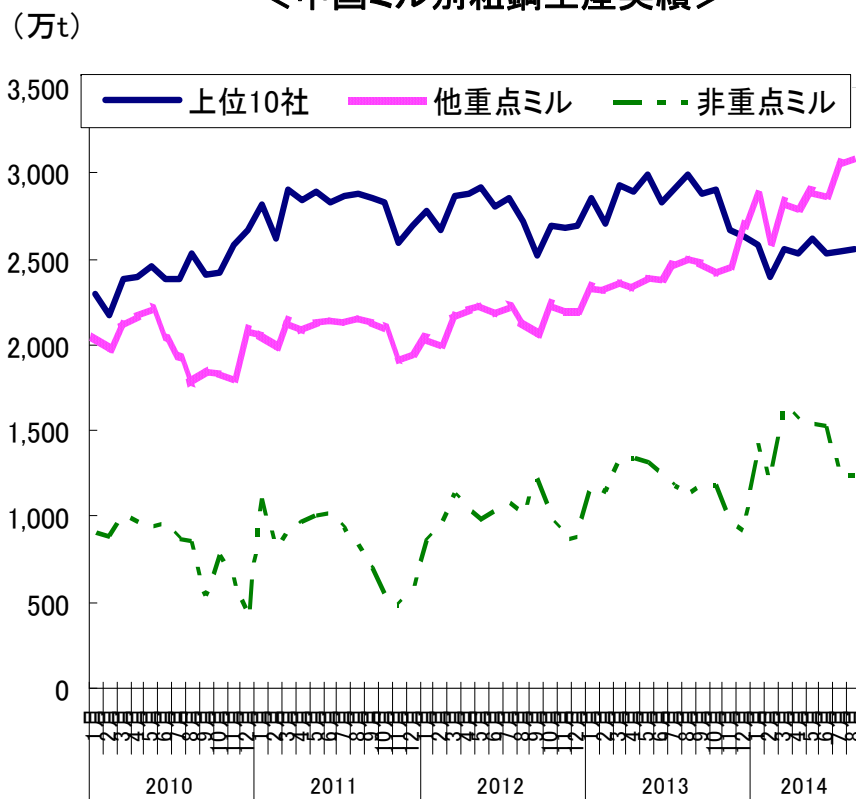
輸出販売環境

中国ミル別粗鋼・品種別

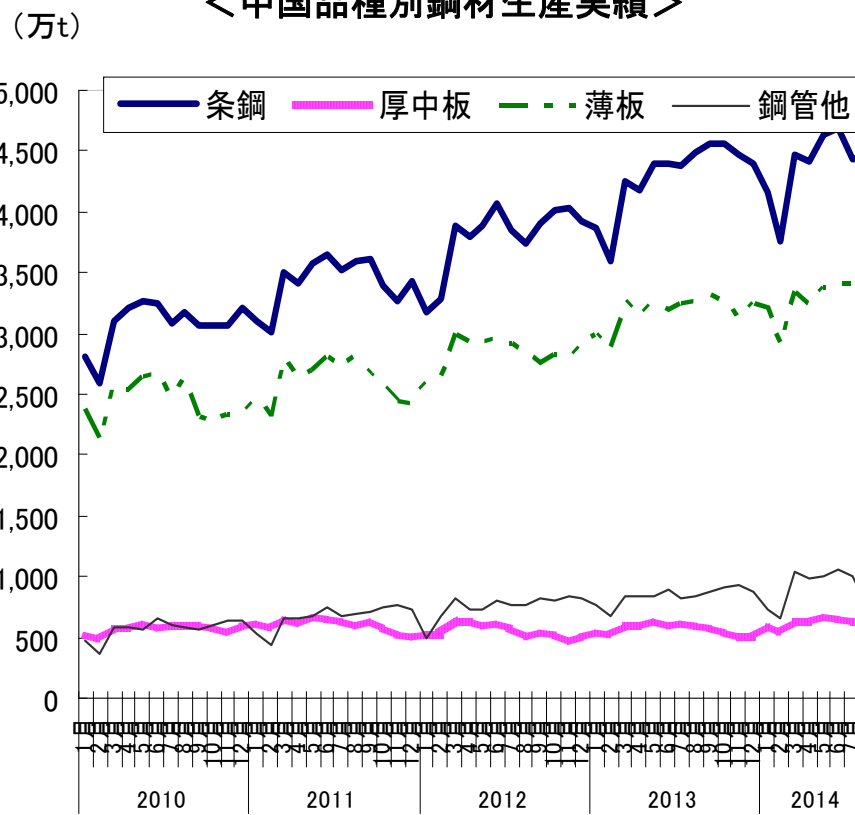
2月以降、非重点ミルは数量減傾向。

条鋼を中心に、高レベルの生産継続。

<中国ミル別粗鋼生産実績>



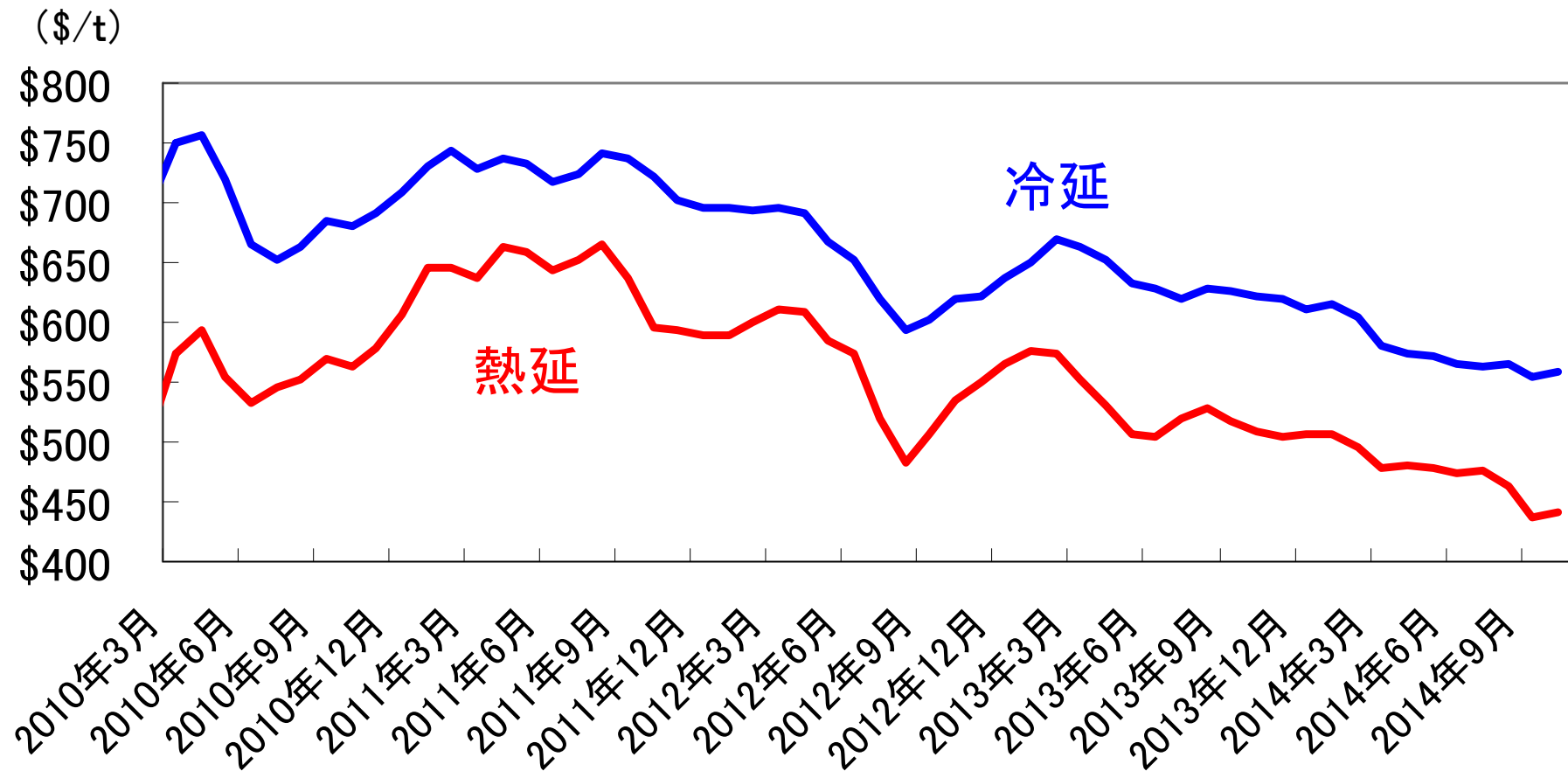
<中国品種別鋼材生産実績>



輸出販売環境

中国薄板価格

足元価格は底入れし反発。



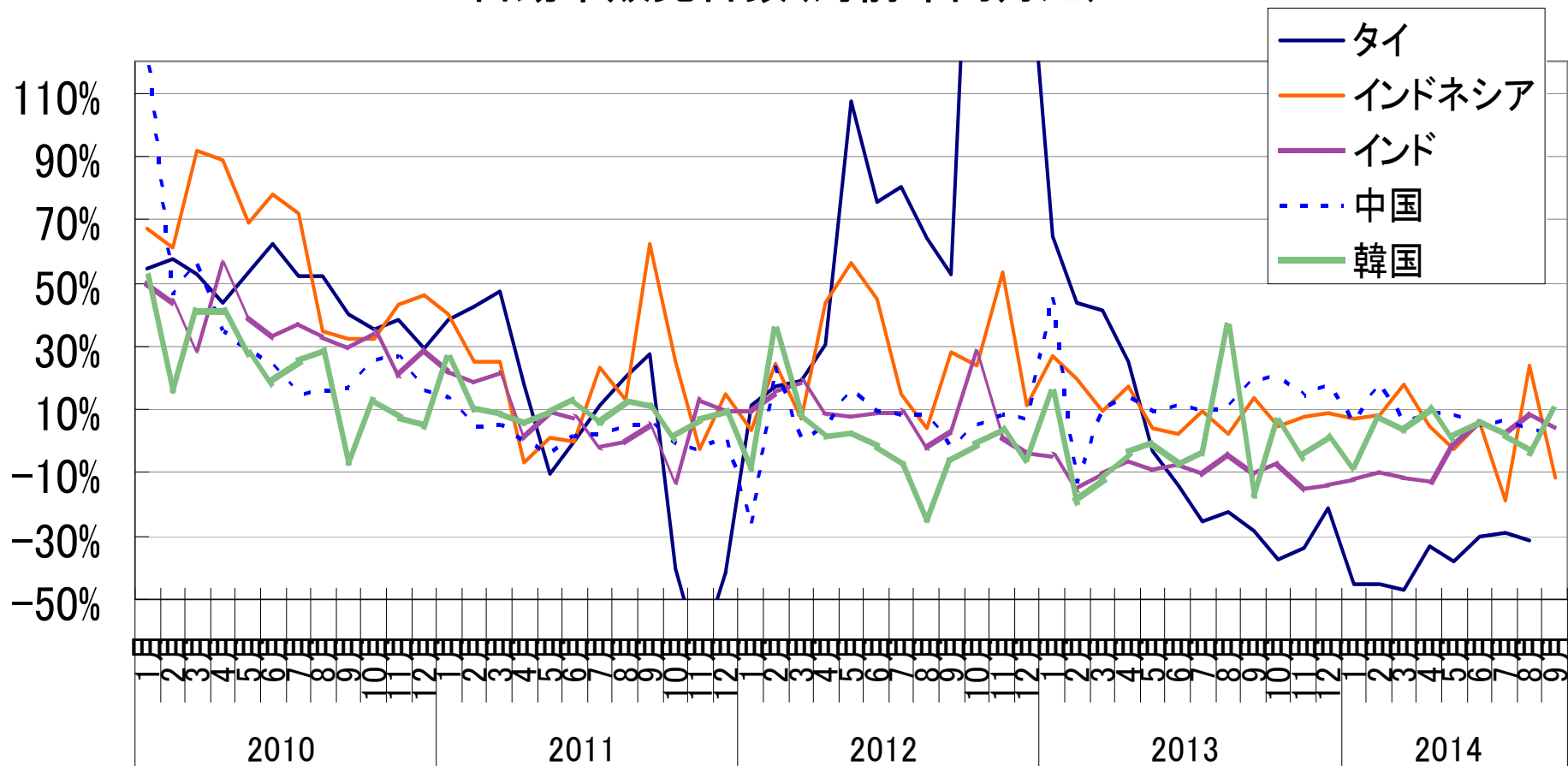
Notes: Figures does not include value-added tax. Prices are average from 21 regions of China.

輸出販売環境

主要国自動車販売

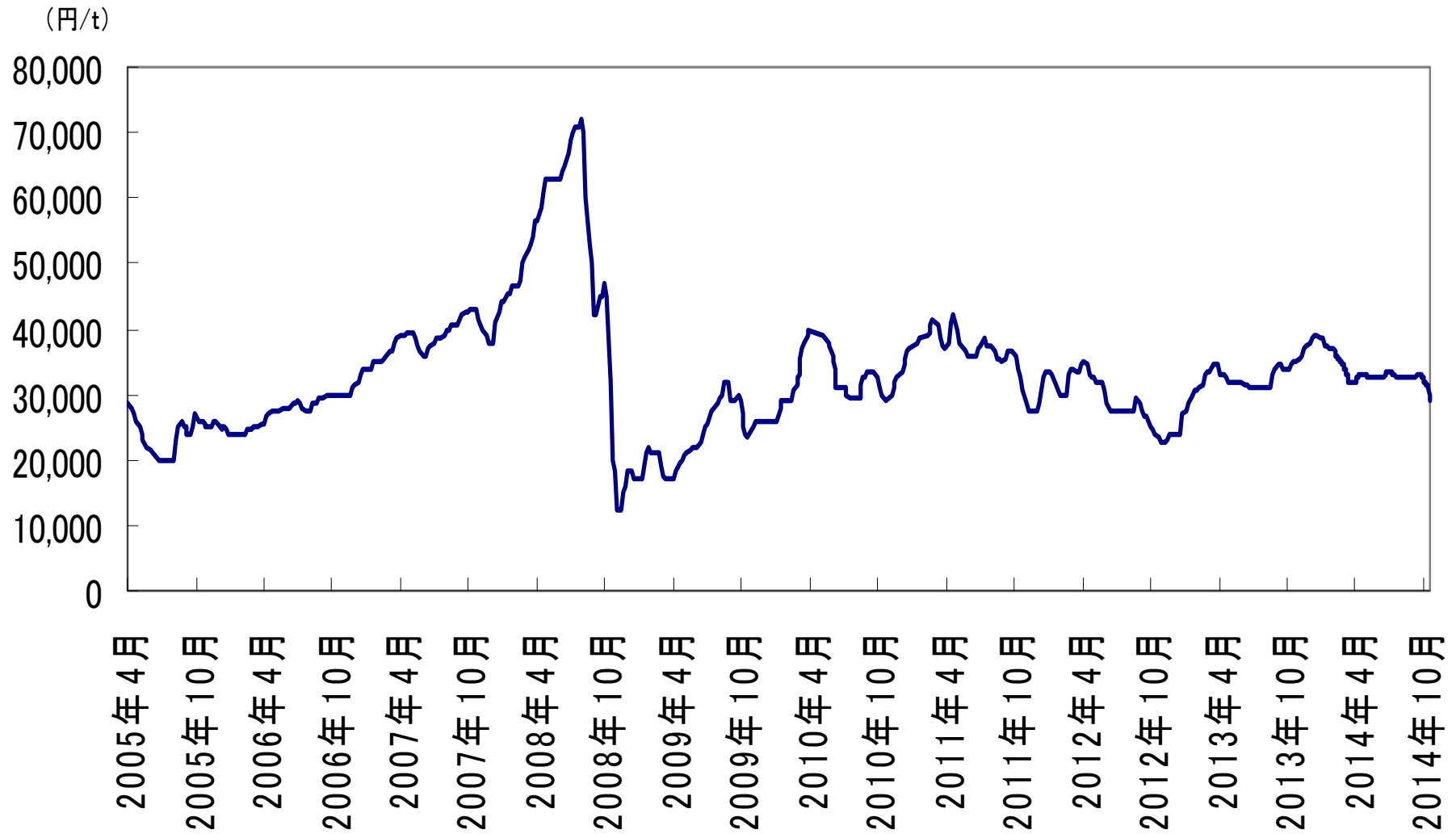
中国： 国内販売は高レベルとなった前年並みを維持。
 タイ： 優遇制度の反動減と政情不安の影響が続き、国内販売は依然低迷。
 インド： 政権交代後の景気回復への期待感もあり、6月以降はプラスを維持。

自動車販売台数(対前年同月比)



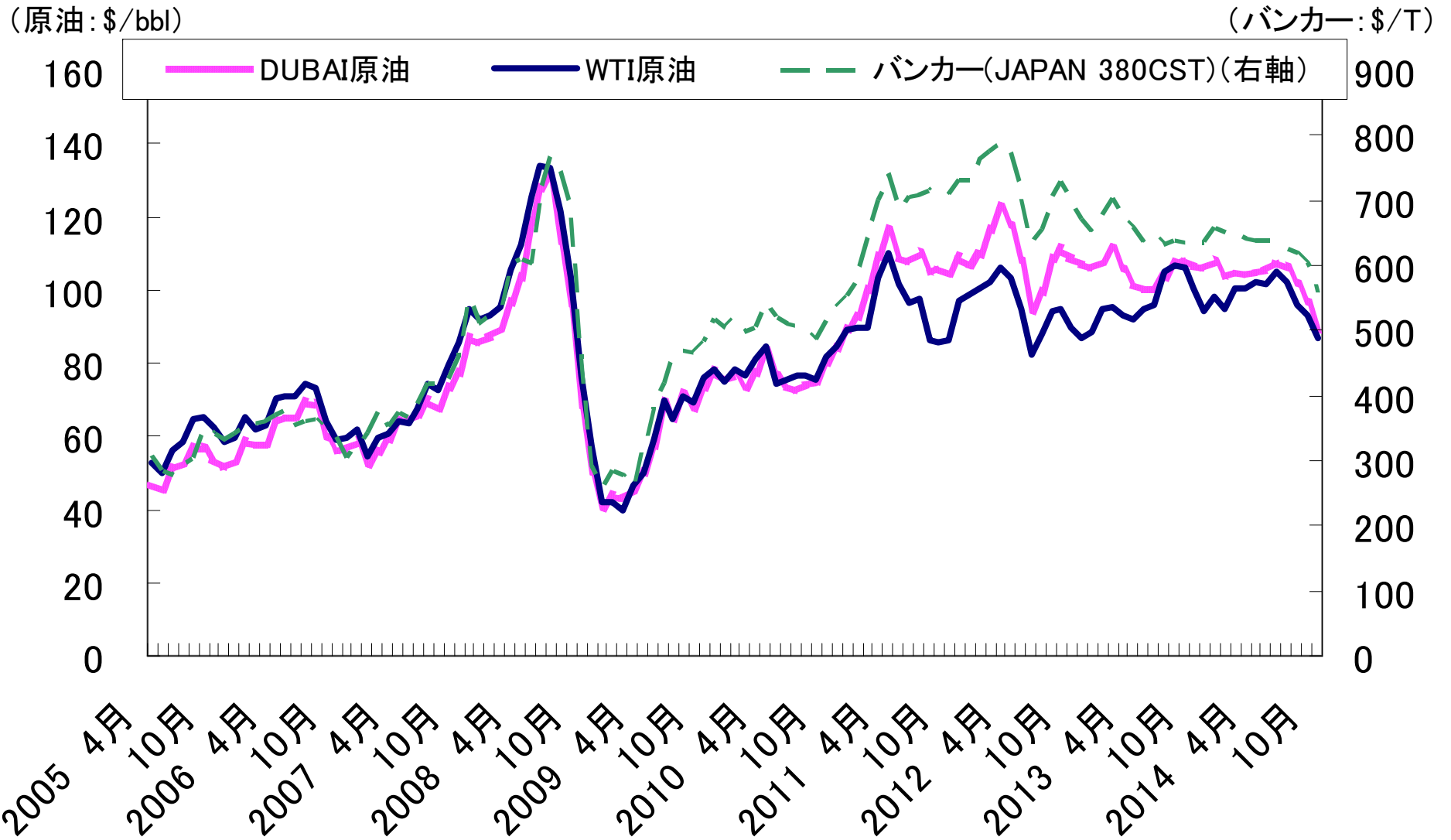
原料

スクラップ価格推移



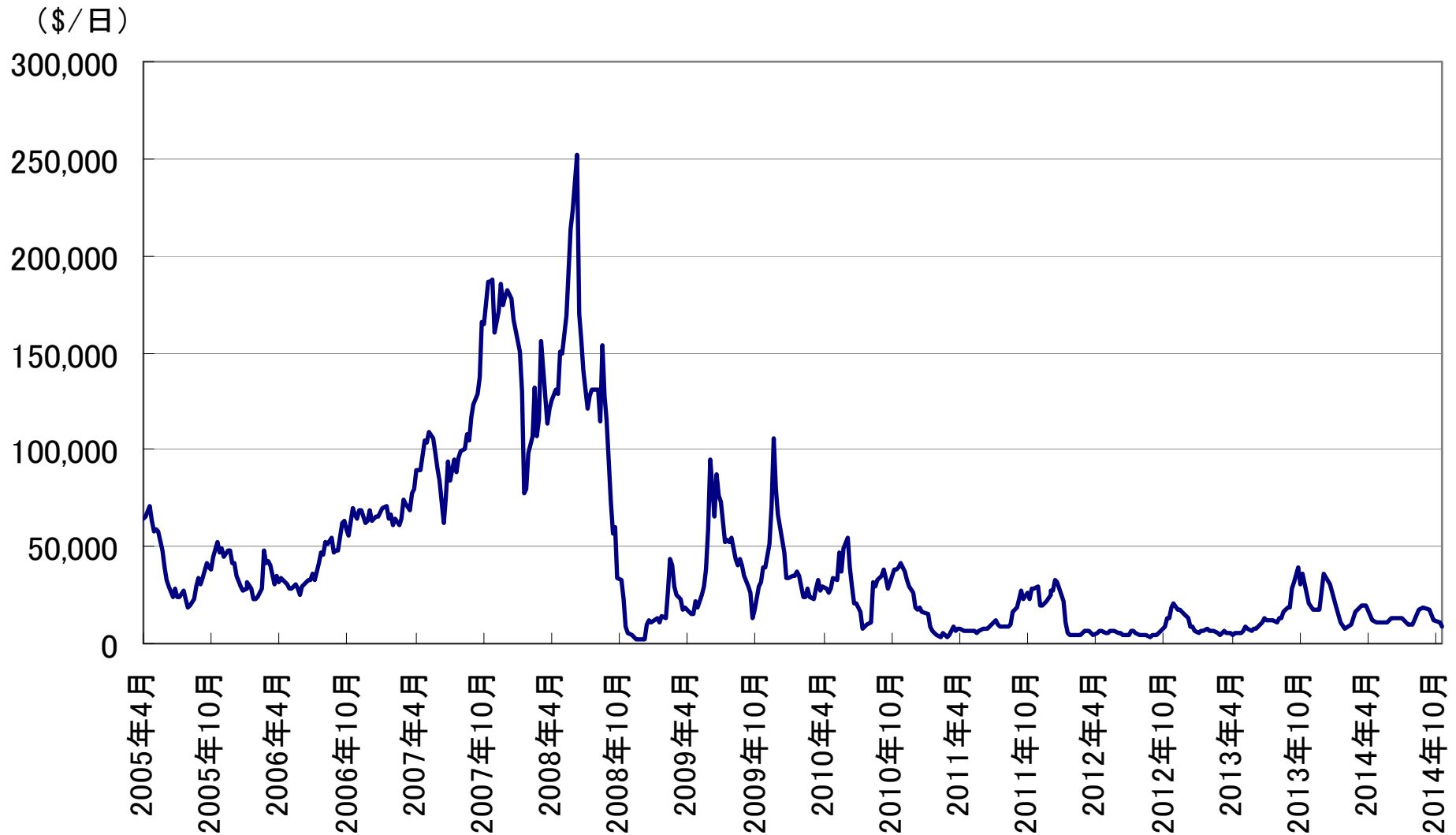
原料

原油・バンカー価格推移



原料

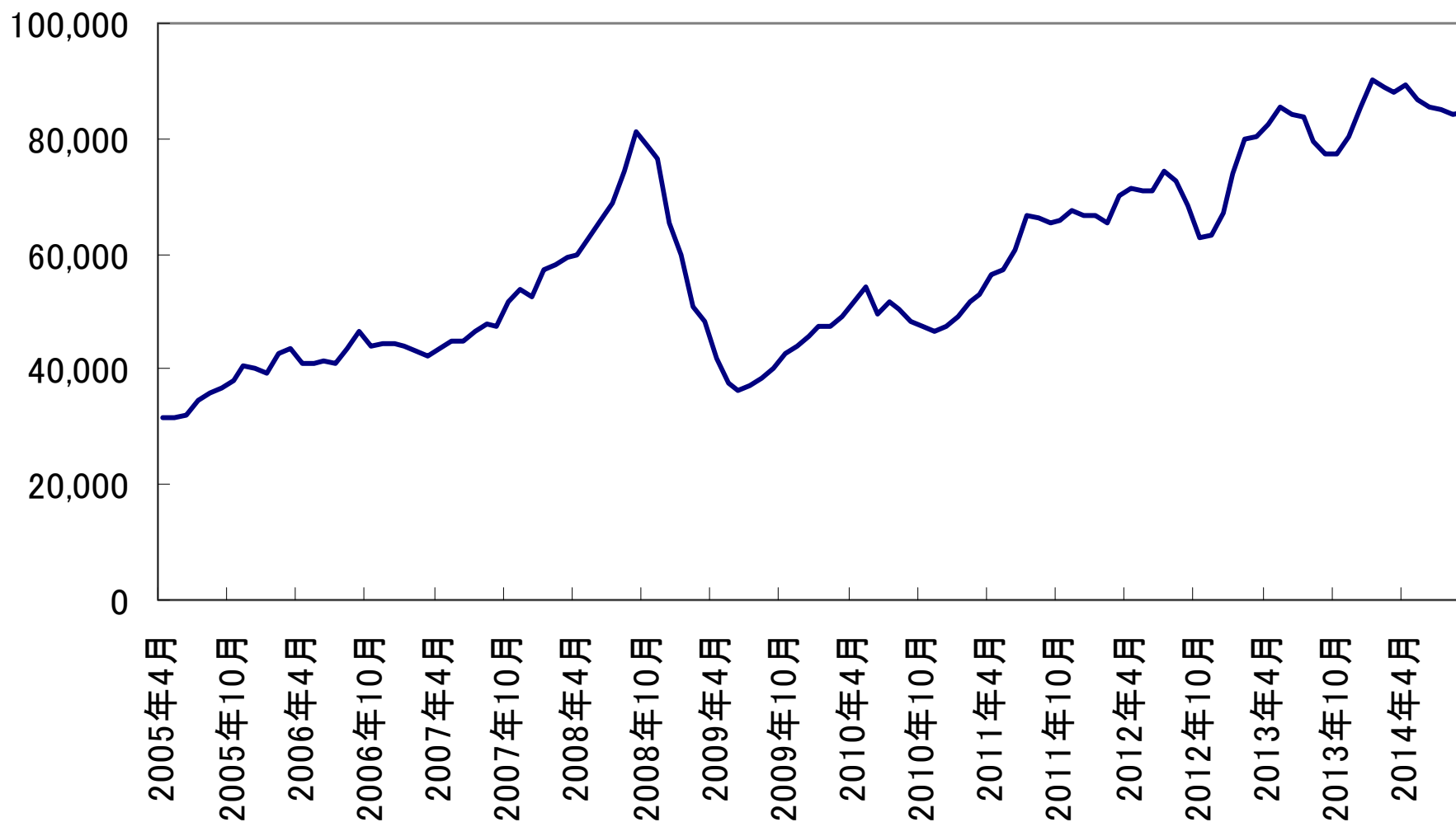
スポット傭船料推移



原料

LNG市況

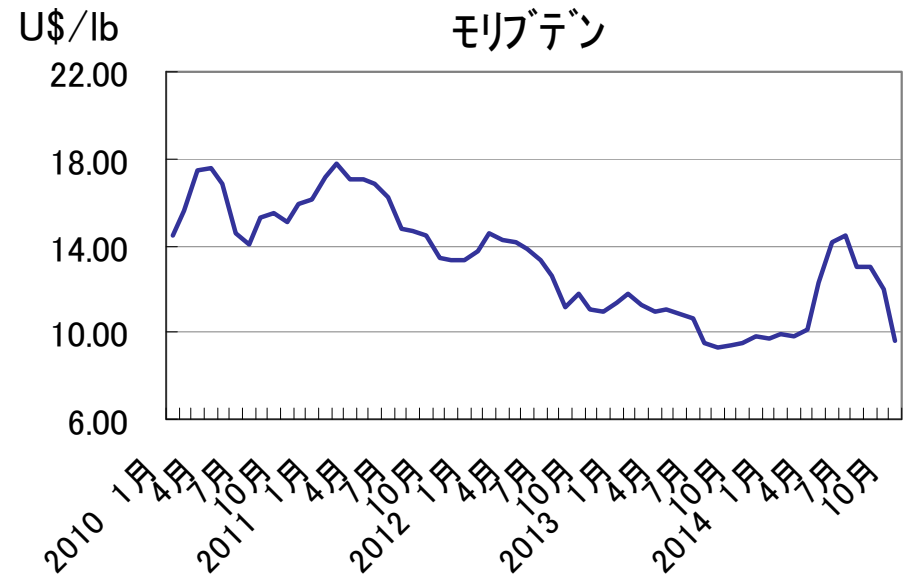
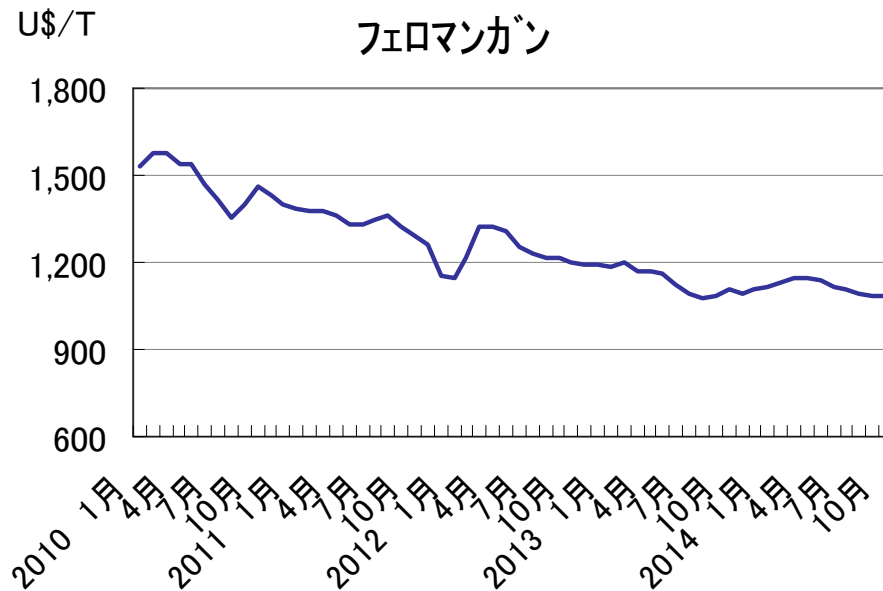
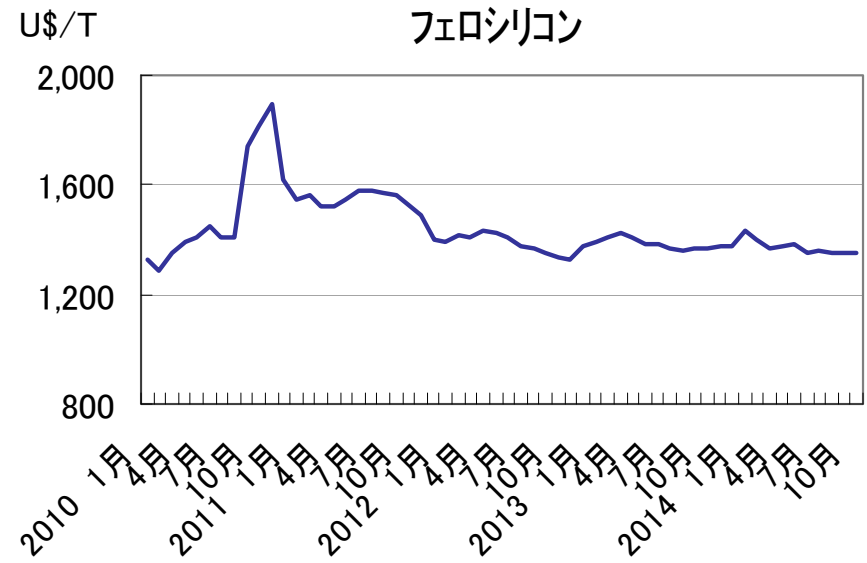
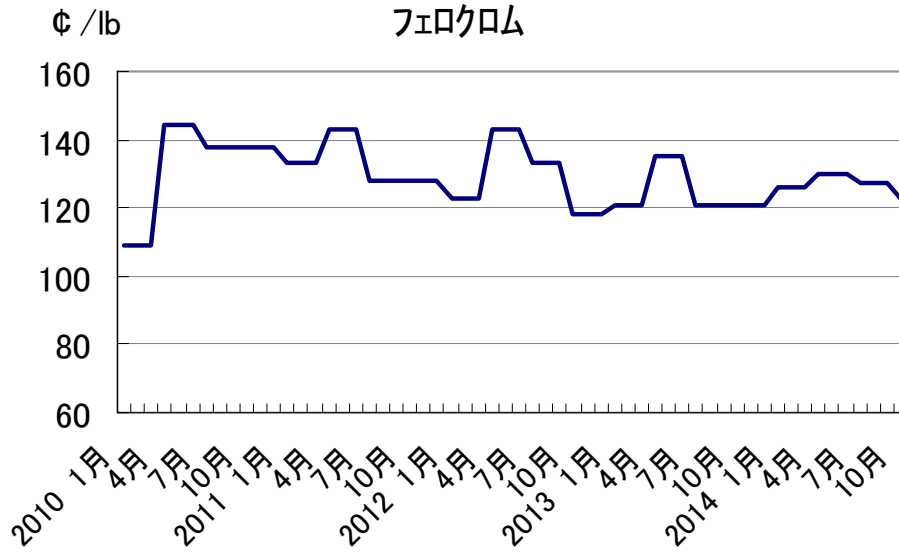
(円/t)





原料

金属類価格推移



以上